

## SR-M20AP1 V02.05 変更内容一覧

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.01~V02.04	IEEE802.1X認証使用時、RADIUS関連構成定義に誤りがある場合メモリークが発生する。
2	V01.01~V02.04	WPA系認証にて端末と接続した際、SR-Mが最初に送信するEAPOLフレームのsrc MACアドレスが 00:00:00:00:00:00 となる。
3	V02.04	自装置宛パケット処理時、システムダウンが発生し装置が再起動する場合がある。
4	V02.03~V02.04	11n通信時に、無線通信が一時的に停止する場合がある。
5	V02.03~V02.04	11n通信時に、無線通信が一時的に停止する場合がある。
6	V02.00~V02.04	認証自動切替機能にてRADIUS認証によるRADIUSサーバ監視行くとメモリの解放洩れが発生し、システムハングまたは装置が再起動する。
7	V02.00~V02.04	認証自動切替機能にてRADIUS認証によるRADIUSサーバ監視行った場合に監視が停止してしまう場合がある。
8	V01.01~V02.04	11bモードにおいて、接続端末のサポート有無にかかわらず常にshort preambleで送信する。
9	V02.03~V02.04	11n有効の状態で運用する場合、メモリ枯渇でシステムダウンが発生し装置が再起動する場合がある。
10	V01.01~V02.04	装置を起動、または再起動すると、TPMドライバでハードエラーログを出力する場合がある。